

倫 理

1 「生徒の主体的な判断」を生かした授業展開例

＜主題＞ 生殖医療はどこまで許されるか。

＜解説＞ 死者の精子を取り出して人工授精させ、代理母によって死者の子どもを得る。医療の世界では技術的に可能なこの事が果たして許されるのかどうかを生徒一人一人に考えさせる。幸福とは？家族とは？を考えさせたい。

2 楽しく哲学することをめざした授業展開例

＜主題＞ ロボットは心を持てるか？

＜解説＞ 情報技術の発達した現在、人間や動物に近い形態のロボットが出現している。「人間のように心を持ったロボットは存在するのか？」この問いを軸に携帯電話やゲームなどを材料にしながら人間の存在、思考や認識といった哲学的な思索をする。

3 「日常生活に対して問題意識を持てる」ことをめざした授業展開例 1

＜主題＞ 家族って何？

＜解説＞ 「家庭崩壊」「家族の再生」など現在の「家族」をテーマにした著作が多い。離婚率の上昇、ドメスティック・バイオレンス（DV）、児童虐待、親殺し…。家族をめぐる様々な問題の根本にある家族の人間的つながりについて考え、幸福な生活の指標とする。

4 「日常生活に対して問題意識を持てる」ことをめざした授業展開例 2

＜主題＞ 環境保護のために自分は何をするか？

＜解説＞ 小学校以来、環境に関する数多くの学習を行ってきた生徒に対し、その総括を行い「君はどうなの？」と生徒自身の環境保護に対する意識を問う。その上でこれから先、「環境保護活動とどう関わるのか？」「環境保護のために何を考えるべきか？」考察させる。

1 「生徒の主体的な判断」を生かした授業展開例

教科(科目)	公 民 (倫 理)	単 元	Ⅱ 現代と倫理	(3) 現代の諸課題と倫理
本時の主題	生殖医療はどこまで許されるか？ (2時間目／3時間)			
本時の目標	(1) 生殖医療の現実に関心を持ち、自分の意見を持つことができる。【関心・意欲・態度】 (2) 従来の倫理観では対応しきれない生殖医療の発達に対し、その現状を分析し、生殖医療行為の当否を主体的に判断し、自分の意見を発表することができる。【技能・表現】 (3) 生殖医療に関する考えを論拠を明確にしながら論述することができる。【思考・判断】			
指導の内容・ねらい	学 習 活 動		指導上の留意点・観点別評価	
・ 前回見たVTRを思いだし、その問題点をまとめる。 ・ 本時はVTRに出てきたパメラやギャビーの行った事に対する当否を判断する。題して「生殖医療倫理委員会○年○組部会」 10分 (経過時間)	前時終了時に提出した視聴用プリントをもとに生徒に発言させながら意見を紹介する。 ○VTRの感想 (例) ・ 亡くなった者の精子を本人の承諾無しに使っていいのか？ ・ VTRの主人公やその家族のエゴだ。 ・ 本人にとって幸せなら他人がとやかく言うことではないと思う。 精子や卵子の売買、人工授精、代理母出産などの生殖医療には、法的規制が存在しないことを確認する。		・ VTRの内容が思い出せるように、授業の開始時に視聴用プリントを返却しておく。 【関】 ＜評価の方法＞ 発問、発言	
・ 少人数のグループをつくり、自分の意見・感想を発表し合い、他人の考えを知る。そして今一度、自分の考えを点検する。 ・ グループ討議の結果をクラス全体に知らせる。 30分	(1) グループ内でパメラ、ギャビーの行為について発表する。記録者は「賛成(容認)」「反対(否定)」に分けて、用紙にまとめる。 ↓ 代表者が黒板の所定のところに板書する。 <生殖医療倫理委員会○年○組部会> 賛成(容認) 反対(否定) ~~~~~ 書き出されたものを全体で眺める。		・ グループ分けは予めしておきこの時点で移動を指示する。 ・ 各グループに賛成・反対の意見を書くメモ用紙各2枚を配布 ・ 各人が必ずグループ内で発表するように指示する (必要があれば司会者・記録者を教師が指名)。 ・ 机間指導をしながら、討議の進行状況を掌握する。その際、進行の仕方、話し合う際の言葉遣いについても指導する。 ・ 板書は他のグループと重複するものがあっても書かせる。【技】 ＜評価の方法＞ 机間指導における観察	
・ 各グループから出された意見をもとに、生殖医療の何が問題かを考える。	(2) <生殖医療倫理委員会○年○組部会>開催 この委員会で生殖医療のどんな点について当否を判断するかを決めましょう。黒板の記述を見て同じ点について賛成意見も反対意見もあるものを指摘してください。(予想される論点) ・ 夫婦(当事者)の合意があるか？ ・ 本人が産むのか？ ・ 本人が責任をもって育てられるか？ ・ たとえ親族であっても、死者の精子を勝手に利用していいのか？ ・ 親子関係は混乱しないか。		・ 生徒に考えさせ、発言させる (状況によっては、教師が見比べながら選び出していく) ・ 「子どもの気持ち」も挙がるだろうが、今回は生殖医療の技術面に限ってまとめたい。 ＜評価の方法＞ 発言とその内容 【技】	

注1

・ 当否を判断しなければならぬ論点について自分の考えをまとめ、クラス全体で討議した後、挙手による評決を行う。 45分	(3) (論点をしっかりとふまえさせながら) Q: パメラとギャビーの行動は許される事でしょうか? 意見を述べてください。 Q: ではクラス全体で評決をとります。	<評価の方法> 発言とその内容 【技】
・ 自分の感想を書く 50分	改めて生殖医療に関する自分の考えを、論拠を明確にしながらレポートにまとめ、提出する。	<評価の方法> レポート提出で確認 【思】

※次回、VTR「クローズアップ現代『代理出産はゆるされるか』」を視聴しつつ、生殖医療についての倫理的なまとめを行う。

注1) 生徒は前時(第1時間目)に次のVTRを視聴している。

ドキュメント・地球時間『生殖医療はどこまで認められるか』

(NHK教育テレビ・2001年6月22日放映)

- ・ この中に登場するおもな人々は、次の通りである。
 - ・ パメラ(19歳の息子を事故で亡くし、悲嘆に暮れている)
 - ……死亡直後の息子から採取した精子を冷凍保存し、孫の誕生を願っている。そのため、卵子提供者と代理母を現在探している。
 - ・ ギャビー(夫を病気で亡くした)
 - ……夫の遺体から採取した精子と自分の卵子を体外受精し、自分が出産した。夫の両親も、夫の妹も子どもの誕生を喜んでおり、家族を亡くした痛みが癒されると言っている。
 - ・ ジャネット＝ベリー(ネバタ州地方裁判所判事)
 - ……生殖医療に対する法整備が十分ではないという理由で、パメラの希望に強い危惧を抱いている。特に生まれてくる子どもにとっての母親、養育義務者の混乱を指摘している。
 - ・ ロスマン(カリフォルニア州で精子バンクを経営する)
 - ……精子を提供することで女性の母性本能が満足されるのなら、受精の事情は問題にならないと考えている。
- ・ 時間は約40分であるが、インタビュー中心に構成されているので、途中でどうしても退屈する生徒が出てくる。

<指導上のポイント、考察>

- (1) 「生徒自身が課題をもって活動する」ことをさらに進めるならば、生殖医療の現実についてインターネットや新聞記事、書籍を利用してグループ単位で調べさせる方法も考えられる。またそれらを教師が紹介し、その内容をまとめさせることもよいと思う。また、私自身が必要に駆られて行ったことであるが、関連教科・科目(生物、保健、家庭科など)の教員に、各々の教科・科目での学習内容を確認し、配慮することも効果的であり、また必要かと思う。
- (2) 生徒の実態や状況に応じて教師がその概要を説明したり資料プリントを配布したりする必要もある。また、ロールプレイを導入して提示する方法も考えられる。
- (3) 今回のVTRが「死者からの精子採取による人工授精の当否」について問題を提起するものであったためか、「死者」という言葉への意識が強く働いて人工授精そのものを否定するクラスもあった。授業を行うに当たっては、条件を単純化するために、「不妊に悩む夫婦の人工授精、代理母出産」というテーマを設定した方が生徒にとって理解しやすいかもしれない。
- (4) まとめをし、評決を行う必要があるかは賛否両論ある。私自身としては「課題を提示しただけ」というより、結論を出しある程度の方向性を与えた方が、達成感を得られ、さらにそれを批判・検討して次へのステップにできると考える。ただし、授業を実施してみないと生徒の考えがわからないため、「まとめ」をその場で考えなくてはならないのが苦しい。

<単元の指導計画(全3時間)>

- | | | |
|------|-------------------|------|
| 1時間目 | 生殖医療の現状を知る(VTR視聴) | |
| 2時間目 | 生殖医療倫理委員会〇年〇組部会 | (本時) |
| 3時間目 | 生殖医療に関する倫理的なまとめ | |

2 楽しく哲学することをめざした授業展開例

教科(科目)	公 民 (倫 理)	単 元	Ⅱ 現代と倫理 (3) 現代の諸課題と倫理
本時の主題	ロボットは心を持てるか？ (1時間目／2時間)		
本時の目標	(1) 「ロボットは心を持てるか？」という問いから、哲学に対する関心をもつ。【関心・意欲・態度】 (2) ロボットと心をきっかけに「人間らしさとは何なのか？」について考察する。【表現・理解】 (3) テーマを考察する過程で、“カビ臭くて、暗くて、小難しい、昔の哲学説のおさらい”のように思われている哲学（「倫理」という科目）が、本当はおもしろいものであることを体験し、哲学的な思索を深める。【思考・判断】		
指導の内容・ねらい	学 習 活 動		指導上の留意点・観点別評価
○テーマの設定をする。 10分	Q1：「ロボットが心を持つことはできるだろうか？」 自由に意見を発表する。 ・人の気持ちがわかるはずがない。 ・プログラムされたこと以外できない。 ・何かを感じることもなんて考えられない。 ・自分で考えるロボットもありそう。 （「ドラえもんはどうなの？」と問うと反応は高まる）		<評価の方法> 発言とその内容 【関】 ・黒板には、「可能」「不可能」に大きく分け、生徒の発言を板書していく。
○人間と機械(ロボット)との区別について考える。 15分	Q2：「できる」と考える論拠はつまりは何？ 「できない」と考える論拠はつまりは何？ 「できる」……人間だってつまるところは物質の固まりであり、脳の働きも科学的に分析可能であるから。（物質主義的考察） 「できない」…機械はあくまで機械であって感情を持つことはあり得ない。間接的に、物質とは別に心が存在すると考えている。（精神主義的考察）		・二つのとらえ方を認識させる。【知】 <評価の方法> 発言とその内容
○テーマに関する検証方法を考えてみる。	Q3：自分が相対するモノに「心がある」と思うときというのはどんなときか？どのような状況の場合に心があると言えるか？ ・会話ができる ・表情がある。 ・感情が伝わってくる。		・相手に心を感じる時という抽象的な問いであるが、生徒の日常的な経験を想起させつつ考えさせる。【思】 <評価の方法> 発言とその内容
(1) 会話のできる高い知能を持てることを確かめる。	○「チューリング・テスト」の紹介 Q4：このテストの結論に対してどんな感想を持ちますか？ 問題点があるとしたらどんな点ですか？ ・コンピューターの知能の高さ ・会話ができるからといって考えていると言えるのか。 Q5：会話ができるからといって考えているとは言えないことを証明するにはどうしたらいいのでしょうか？ (Q4の答えとして会話のことが出なければ、この問いは飛ばして次へ進む) ○「中国語の部屋」という実験を行う。		・柔軟な発想ができるか？ <評価の方法> 発言とその内容
(2) 知能と思考は別物であることを考える。	Q6：この実験からどんなことが言えるのでしょうか？ 言葉が並んでいるからと言ってそこに意味（思考）が入っているとは限らない。 ↓ 会話ができるからと言って心を持っているとは言えない。 ○自分たちの経験から考えてみよう。 Q7 誰かと携帯電話でメールをやりとりする場合…… ・本当に相手に間違いないのだろうか？ ・それは、ひょっとしたら、機械を相手にしているのではないだろうか？そうではない根拠は何か？		<評価の方法> 発言とその内容

注1

注2

注3

45分	Q 8：誰かと対戦型のゲームをしている場合…… ・相手の顔が見えないとき、自分が対戦しているのは、本当に相手なのだろうか？それとも機械だろうか？そう判断する根拠は何か？ 機械はやっぱり動きが違う。 行動にパターンが見える。 などの答えが多い。	
50分	○まとめ ではやっぱりロボットが心を持つことは不可能なのだろうか？。 <先生のこだわり> 人間だって物質の固まりであることは間違いない。なのになぜ人間は心を持てるかが納得できない。 次回は脳の仕組みや認知科学の成果を入れながら、もう少し議論を進めたい。	

<参考文献> 柴田正良『ロボットの心 ― 七つの哲学物語 ―』（講談社現代新書、2001年）

注1：教師が「心を持てる」という立場で授業を進めると、活気が出る。

注2：チューリング・テスト…約50年ほど前のイギリスの数学者アラン・チューリングが提案したテスト。テストの概要は以下の通りである

1. 複数の機械と人間のそれぞれに、判定者が電子メールのような手段だけで質問する（相手が機械なのか、人間なのかは、判定者はわからない）。
2. 相手との何回かの会話を繰り返したのち、相手がどちらだったのかを判定者が判断する。
3. 判定者が、機械を「人間だ」と判断した場合、機械は「知能を持つ」すなわち「考えている」と判断できる。

注3：中国語の部屋…哲学者ジョン・サールが1980年代に提案した議論。

ここでは単純なものを行う。

<準備>中国語で書かれたカードを準備する。カードは会話になるように2枚で1組にし順に番号をふっておく。カードは中国語である必要はない。教師自身が独自の記号で構成しても構わない。要は生徒にとって未知の、あるいは意味不明な言葉であればよい。詳しくは参考文献（前掲）の85ページからを参照して下さい。

1. 生徒を一人選びカーテンか衝立で遮断された場所（教室内の一角に作る）に入る。中には準備したカードの一方が用意されている。
2. 1の場所（遮断された区画）に外側からカードを1枚入れる。
3. 中の生徒は入ってきたカードと同じ番号の書いてあるカードを外に送る。

<解説>ペアのカードは会話のやりとりになっている。中の生徒は書いてある言葉を知らないから言われたとおりにカードを送る作業をしているに過ぎない。しかし外側の者にとっては見かけ上カードのやりとりが会話として成立していることになる。つまり、会話が成立していても中の生徒（コンピューターにあたる）はそのことを理解していないのである。

<指導上のポイント・考察>

- (1) この授業案は前掲の著書の一部を教材化したものである。授業を行う前には是非一度読んで、しかる後に授業に臨みたい。
- (2) 最初の発問を「ロボットと人間との違いは何か？」とすると、かえって意見が多方面に拡散し、まとまりづらくなると予想し、今回は避けた。
- (3) 一つの発問にあまりこだわっていると、時間が不足するだけでなく、生徒の関心や集中力を維持することが難しくなるので留意する必要がある。
- (4) 発問や扱う内容には、生徒の身近なもの・関心の持ちやすいものを用意したつもりであったが、授業後に生徒に尋ねてみると、議論が難しかったようである。極力議論をわかりやすいレベルに維持することに注意を払わなければならない。

<単元の指導計画（全2時間）>

- 1時間目 ロボットが心を持てることを証明できるか？（本時）
2時間目 「倫理」を学ぶということ。

3 「日常生活に対して問題意識を持てる」ことをめざした授業展開例 1

教科(科目)	公 民 (倫 理)	単 元	Ⅱ 現代と倫理 (3) 現代の諸課題と倫理
本時の主題	家族って何? (2時間目/3時間)		
本時の目標	(1) 家族内での各人の役割について改めて考える機会にできる。 【関心・意欲・態度】 (2) 非常に情緒的な側面の強い現代の家族にあっては、「平和で安定した家族」が当たり前ではなく、家族関係がかなり危ういことに気づき、それを具体的に発表する。 【思考・判断】 (3) 現代の家族の危うさを理解した上で、改めて家族のつながり、家族内での自分の存在の意味を考える。 【思考・判断】		
指導の内容・ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
・「現代の家族」の状況を把握する。 5分(経過時間)	現代の家族について、前時の内容を確認する。 少子化の進行、核家族化、晩婚化、離婚率の上昇(特に熟年離婚の増加)、DV、児童虐待、家族観の変化など	・前回配布の資料も参考にする。	注1
・生徒の提出したアンケートの結果から、生徒の抱く家族像を探る。 10分	作業シート結果の発表 1, 「こんな家族じゃない!」の場面設定 ○予想される設定 ・家族の食事がバラバラ。 ・家族各々が一つ屋根の下でバラバラの事をしている。 ・各々が自分の部屋に閉じこもっている。 2, 叫びを發した人にとっての「家族」とは? ○予想される答え ・親子が仲良くする。 ・家族が揃って食事をし、そこに会話がある。 ・相談にのってくれる、アドバイスをしてくれる。	・ユニークな設定についても紹介をし、生徒の作品を活かす。 <評価の方法> ・作業シートの事後提出で確認。 ・場面の設定が具体的でわかりやすく書かれているか。 ・他人の作った例に興味を持って聞けたか。【関】 (後のページに作業シートを掲載)	注2
・家族という場の意味を考える。 30分	Q1, あなたが家族に期待すること(してほしいこと)は何ですか? ○予想される生徒の反応 ・自分を信じて任せてほしい。 ・困ったときに相談に乗ってほしい。 など Q2, あなたが家族からされたくないことは何ですか? ○予想される生徒の反応 ・勝手に部屋に入らないでほしい。 ・やかましく干渉しないでほしい。 など Q3, 主婦(主夫)になったつもりで、家にいる者として家族に何を期待しますか? ○予想される生徒の反応 ・家にいるときぐらい手伝ってほしい。 ・すべてのことをやらせないでほしい。 など Q4, 仕事から帰って来る人(生計を支える人)になったつもりで、家族に何を期待しますか? ○予想される生徒の反応 ・疲れて帰ってくるんだから、ゆっくりさせてほしい。 など ↓ Q5, Q1~Q4をまとめると、どんな家族になるか? ・各々がバラバラの家族、つまり「こんな家族じゃない」家族ができてしまう。	・自分以外の家族の立場も考えさせ家族に対する見方が深まるように問いを發する。 <評価の方法> 役割を的確にイメージし、自分の考えをまとめ、わかりやすく意見を述べる事ができたか。【思】	注3
・家族がその構成員に果たしてきた役割を認識する。	Q6, あなたが将来家族を持つとしたら、どんな家族にしたいですか? ○予想される生徒の反応 ・平和で安心できる家族。 ・わがママが言える家族。 ・気兼ねのいらぬ家族。 など (生徒の作りたい家族像をまとめる)	・ここでは「家族を持つ」という前提で話を進める。 <評価の方法> 【思】 自分のこととして考えられたか。テーマにそった発言ができたか。【思】	注4

40分	Q 7, ところで、「家族」が社会の中で果たしてきた役割（家族機能）にはどんなものがあったのだろうか？ 「家族機能の外部化」について ⇕ 残っている家族の機能 ・種族の保存→夫婦の営みのみ ・扶養、保護→一部外部化が進行⇒ ・精神的安定 家族の機能（役割）は情緒的（感情的）側面が強くなっている。	倫理資料集を参照	注 5
45分	改めて、家族の意味そこにおける自分と自分以外の家族との関係を見つめ直す。 Q 1～5のことをふまえ、Q 6を実現するには、家族ひとりひとりがどんなことを考えなくてはいいか？ ・「平和で心休まる家族」は自然にできるのではなく、そこにひとりひとりの他人への思いやりが必要であることを考える。		注 6
50分	授業のまとめ（発展）として、改めて、DV、児童虐待、親殺し・子殺しなどのテーマを選択し、その原因を考えるレポートを提出する。	＜評価の方法＞ レポートの事後提出で確認 【思】	

＜指導上のポイント、考察＞

- (1) 言うまでもなく、生徒の家庭状況は多様であり、実態に即して扱わないといけないデリケートなテーマである。授業の眼目は、あくまで生徒ひとりひとりが現在及び将来の家族（または、それに代わる集団）において、安心できる場所を築くための意識を持たせることにある。個別の家族の現状についての善悪（成功と失敗）を考えるものにならないよう注意なくてはならない。
- (2) 生徒の主体性が言われる中で、グループを作って家族をめぐる問題について調べさせることも考えた。しかし、先述のように多様な家庭状況がある中、調査や意見交換の場での生徒の不用意な発言を避けるために、敢えて生徒の自主的活動は入れなかった。
- (3) まだまだ配慮の足りない部分もあり、一層の改良が必要であることを痛感している。
- (4) 家族に対する思いやりの気持ちが、現在家族が直面している様々な危機に生かされるとよいと思う。
- (5) 「家族の再建」が叫ばれる一方で、家庭崩壊が拡大する中、果たして家族が必要なのかということも議論されてきている。余裕があれば、「家族の必要性」についても考えてみたい。

注 1) この資料は、信田さよ子・西山明著『家族再生』（小学館）の巻末資料（P198～P217）からの抜粋であり、14種類の表・グラフを示した。一つ一つについてそこから読み取れることを答えさせると、表・グラフの活用として有効であるが、時間がかかる。

注 2) あらかじめ作業シート（A 4 版 1 枚）を作成し、(1)として「こんなの家族じゃない！」と家族の誰かが叫ぶ場面を書かせた。箇条書き、イラスト、物語風など形式は自由である。この作業は、別に生徒の生活に基づいて答える必要はない。要は想像力を使ってドラマや映画の 1 シーンを描けばよい。次に (2)として (1)の発言者が望む「家族」を書かせた。授業では数編の紹介を教師が行った。

注 3) 家庭内での各人の立場をイメージさせる。生徒の多くは、家庭で見たり言われたりしている事を挙げてくるようである。しかし、自分の経験を語らなければならないわけではなく、各自が思い思いに想像すればよい。

注 4) 結果的には、前出の作業シートで設定されたような家庭像ができあがった。

注 5) ここでは家族の歴史的経緯は無視し、家族が自力で生きていかなければならない状況を想定する。現代の家族が弥生時代にタイムスリップしたような、あるいは無人島に家族だけで生活している状況。

注 6) 現代の家族機能は情緒的側面が強いため、なおさら家族各々が他人への思いやりを持たないとむき出しの感情の衝突が起こり、家族が崩壊の危機にさらされることを考えさせたい。

＜参考＞

教科書の資料にも取り入れられている小此木啓吾著『家庭のない家族の時代』（ABC 出版）の中で、新しい人間の生活形態について次のように述べている（P270～P271）。なお、この著作は1983年発行と古いが、現代の家族に関する示唆に富んでいる。

「一言でいえばそれは、古い家庭・家族観にかわる「ヒューマン・ネットワーク」観を心の中に準備することである。第一に、一度思い切って、家庭・家族についての既成観念を捨てる。たとえば、子どもの心身の発達を考える場合

に子→母→家族→社会という発達図式から、家族をはずし、それに代わる養育専門家や親代理、あるいは何人もの親などからなるヒューマン・ネットワークを考える。

第二に家庭・家族をもたない個人とか、家庭のない家族といった人間のあり方をノーマルなものとしなす。たとえば、シングلزとして暮らす人々、あるいはホテル家族的な暮らしをする家族、ひいてはバラバラに別なところで暮らす夫婦・家族のあり方を、不本意なことであるとか異常なことだと思わないで、ごく自然なものに思う。

第三は、今までの既成観念から見ると不幸な存在に見える人間のあり方を、むしろ、新しい時代のパイオニアとみなす。たとえば、離婚・再婚しながら、子どもとの絆を保つ努力を続ける人々は、もしかしたら離婚・再婚したことのない人々にとってのパイオニアである。未婚の母・非嫡子（私生児）、実の親に加えて継父母をもちながら育つ子どもたち、結婚しないまま同棲をくり返すシングلزたち。これらの人々は、これからの新しい人間のあり方のパイオニアではないか。

第四は、個人をささえる人間環境として、友人、学校、職場さまざまな施設などのヒューマン・ネットワークを、これまでの家族以上に重要な機能をもつ人間のしくみと考える。たとえば、従来の学校教育は、家庭教育を前提にして成り立っている。しかし、家庭のない家族がふえるとともに、もはや家庭のしつけがきちんとできていないまま保育園・幼稚園、小学校にあがる子どもがふえている。この場合、学校教育そのものが、既成観念とはまったく違った、家庭に代わるヒューマン・ネットワークの機能をもつ時代の到来に対して、真剣な準備をはじめてほしい。

第五は、男性と女性の役割りと在り方についてもっと自由で柔軟な考えをもつ。男性が育児をやり、女性が仕事をするカップルも異常とはみなさない。むしろ、個人がそれぞれにふさわしい個性的で多様な役割りのとり方が可能になるような男性、女性の組み合わせを考える。

第六は、一定時点での純粋で親密な愛情関係を大切にすることをかわりに、これまでの人間関係が重きをおいていたお互いの間柄の永続性と相互拘束性を断念する。つねに別れと対象喪失に耐える心を養い、一人で生きる強さをもつ。そのうえで、この不確定な要素に満ちた、しかし緊張感の高い愛情関係を大切にする。」

＜単元の指導計画（全3時間）＞

- 1時間目 「現代の家族」の状況を把握する。
- 2時間目 家族のもつ意味と、その中での自分の役割を考える。（本時）
- 3時間目 「家族」が舞台の社会問題を考える。

作 業 シ ー ト

テレビのドラマ、映画、お芝居、何でもよし。家族を前にして、その家族の誰かがこう叫ぶ。

「こんなの家族じゃない！」

この発言が飛び出した状況（シチュエーション）を具体的（場面設定、人物設定）に描き出してください。

1

2

3

4

5

6

4 「日常生活に対して問題意識を持てる」ことをめざした授業展開例 2

教科(科目)	公 民 (倫 理)	単 元	Ⅱ 現代と倫理	(3) 現代の諸課題と倫理
本時の主題	環境保護のために自分は何をするか。(1時間目／3時間)			
本時の目標	(1)今までに学んできた「環境」についての学習を総括し、現在の自分の環境に対する意識を明確にする。【思考・判断】 (2)これから先、「地球規模で考え、足元から行動する」(think globally, act locally)ことができる意識・態度を養う。【関心・意欲・態度】 (3)生徒が自分たちで集めた統計資料を分析し、次の行動の方針を考察することを実習する。【表現・技能】			
指導の内容・ねら	学 習 活 動		指導上の留意点・観点別評価	
・導入として2002年に開催された環境開発サミットについて知る。 5分(経過時間) ・過去に自分が受けてきた環境教育を振り返り、何を身につけたか考える。 15分 ・環境に関する学習を受けて、自分の中や家庭で何が変化したかを考えさせる。	○2002年の環境開発サミットの内容を知る。 Q1：今年、環境開発サミットはどこで開催されたか？ Q2：宣言の中に環境に対する模範的な取組みとして盛り込まれた日本の都市はどこか？ Q3：北九州市ではどんな取組みが行われているか？ ・A1 南アフリカ共和国のヨハネスブルク ・A2 福岡県北九州市 ・A3 都市施設および都市活動のエネルギー・水、資源の循環負荷が小さいゼロエミッション都市の建設を進めている。(エコタウン事業) ○今までの環境学習が残したもの。 Q4：今までに自分が受けてきた環境教育はどんなものがあるか？ Q5：今までの学習は、「環境」に対して何を学んで欲しかったのか？読みとってみよう。 ・羅列的に板書されている環境教育の項目を見ながら、発問によって「環境の現実を知るもの」「環境保護について学ぶもの」「自然の大切さを学ぶもの」に大きく分ける事ができることを理解する。 Q6：自分は環境に対してどんな意識をもっているか？ ・環境について知ったことは何か。 ・「環境に優しい」どんなことを実行しているか？ ・やると環境に良いとわかっていてもできていないことは何か？ ・なぜできないのか？ Q7：環境に関する自分の意識をグラフに表してみよう。 ・プリントの以下のグラフのマス目の中に○を記入する(縦軸は地球規模の環境問題に対する意識を、横軸は自分の環境保護に対する意識を示す) 環境保護 より快適な生活 ← → 快適な生活 よりも環境に優しく 開発優先 Q8：クラス全体の環境に対する意識についてどんな傾向が有ると考えられるか。		Q1～Q3について答えさせながら環境問題への意識の喚起を図る。【関】 <評価方法> 質問に対する発言とその内容 Q4については、プリントに自分の考えを記入させ、意見発表させる。【思】 <評価方法> プリントの事後提出で確認 Q6については、プリントに自分の考えを記入させ、意見発表させる。【思】 <評価方法> プリントの事後提出で確認 Q7については、プリントに自分の考えを記入させる。【技】 <評価方法> プリントの事後提出で確認 クラス全体の意見を集約するために拡大したグラフを列毎に回し、今度は自分が選んだマス目のところに「正」の字を記入していく。全員が記入し終わったら、集めて黒板の大きなグラフに数字で記入していく。 Q8については、プリントに自分の意見を記入させ、意見発表させる。【技】 <評価方法> プリントの事後提出で確認	
30分 ・これからの環境教育のあり方を考える。				

40分 ・視野を広くして環境問題に対する行動指針を考えさせる。	○クラスの結果から考察する。 ・これからの環境教育は何をどんなふうにしたらより実効あるものになるだろうか。 Q9：現在、環境問題は順調に解決してきていると考えられるか？ ・考えられる → 河川や空がきれいになった 公害病認定患者が減少した ・考えられない → 酸性雨の被害の拡大 国境を越えた公害の拡大 オゾンホール拡大など Q10：本時の内容をふまえて、今後は環境保護に関してどのような活動を行っていくといいのだろうか。 ・身近な生活環境について 個人が自覚を持つ 省エネ、リサイクルの徹底 企業が意識を持つようにする ・地球規模の環境保護について 国際的な取組の拡大 先進国の発展途上国への支援拡大 Q11：個人・企業・国家の自覚や善意だけで環境はよくなるのか？ ・環境保護の行動が利益につながるような方策を考えることも重要である。 税の優遇措置、環境税の還元、無償援助など	Q9については、国や国際社会の取組を想起させ考えさせる。 【思】 <評価方法> 質問に対する発言、その内容 Q10については、プリントに自分の意見を記入させ、意見発表させる。 【技】 <評価方法> プリントの事後提出で確認 ・結果は従来と同じ項目をあげる ことになってしまうが、それを利用してQ11へ進む。 <評価方法> 【関】 質問に対する発言、その内容
50分		

<資料> 次ページに配布用のプリントを添付した。実際の物はB4判で作成してある。従って生徒の書き込む欄はもっと広くとってある。

<指導上のポイント、考察>

- (1) Q4に対する反応は、最初ほとんど無かった。しかし、例（雨の酸度の測定、蛍の飼育、水生昆虫の生息調査など）を挙げた後は思い当たる事が増えた。
- (2) Q5の意図をとらえることは難しかったようである。教師が黒板に書き出された項目に色を付けたりしてヒントを与えなければならない。
- (3) 結局は環境保護のための目新しい方法は出てこなかった。しかし、なかばお題目のようになり知識のみを身につけている環境問題に、実践に向かう刺激を与えることができたと思う。授業の開始時には「また環境問題か」「もう聞き飽きた」などといった雰囲気が感じられたが、生徒のにとっては意外な授業展開であったようである。もう少し将来の行動につながるような授業構成に改良する必要があると思う。

<単元の指導計画（全3時間）>

- 1時間目 環境問題を整理し、自分の考えを明確にする。（本時）
- 2時間目 身近な社会の環境に対する意識を調べる。
- 3時間目 この先環境保護のために自分はどんな行動をとるのか。

健康
<倫理> 今の環境問題を問い直して見よう！！

1) 今までに学校でやってきた環境学習をあげてみよう

2) 今の自分の環境に対する意識をまとめてみよう

ア) 環境について学習して知ったことは何か？

イ) 「環境に優しい」どんなことを実行しているか？

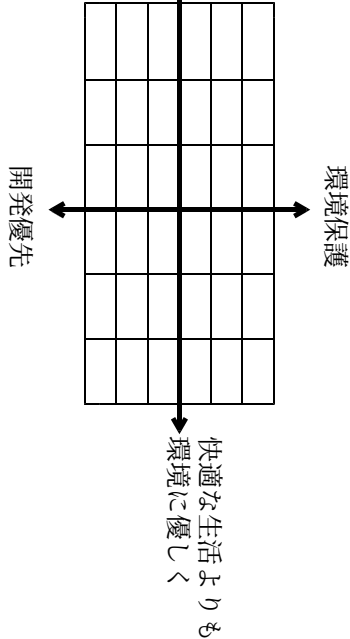
ウ) やるといいとわかっていても出来ないことはどんな事？

エ) ウは何故できないのだろうか？

○環境に関する意識をグラフの上に表してみよう
(自分の気持ちに最も近いマス目に○をつけよう)

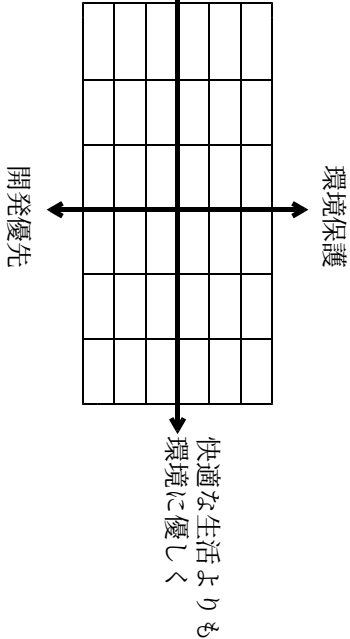
<自分>

環境保護より
快適な生活



<クラス>

環境保護より
快適な生活



【考 察】

○これからの環境保護政策とは？

「新しい『倫理』の授業展開例を作成するにあたって」

◎自分にとって「倫理」はどんな科目か。

倫理というと「昔の人の哲学論を、難しい資料を使って知る科目」という固いイメージが先行している。とにかく敬遠されがちな科目ではあるが、授業展開の工夫という点ではかなり自由度が高い、魅力ある科目であることを実感した。

現代の日本は到達すべき目標、国家を挙げて進むべき未来のはっきりしない状況にあり、人生をどう生きるべきか、何を目標に生きるのかが見えにくくなっている。利己的、即物的な事件が多発するのもそのせいではないか。こう考えると「倫理」において「生き方・在り方」を考えることは重要なことであると思う。

◎どんな授業を目指そうとしたのか。

ズバリ「えっ、これが倫理の授業なの？」と、生徒が驚きと興味を持てる授業を考えた。私に与えられた課題が「現代の諸課題と倫理」の分野での授業案作成であったので、現代社会の抱える課題から4つを取り上げ、倫理面からの考察を試みようとした。

最近の生徒は、調べてまとめることについては小中学校でかなり訓練されているように思う。しかし、事実をもとに自分なりに合理的な解釈を加えることはまだまだ未熟である。従って授業ではなるべく「あれこれと考える」材料を提供することを心がけた。

◎授業構成上は何を心がけたか。

内容的に他の教科・科目と関連する部分が多く、それだけに同じような内容の授業になることを避けるように心がけた。ただ、私自身が考えていた以上に他教科・科目の授業は専門的・具体的であり、倫理面（道徳面）にまで広く（深く）踏み込んでいるものは少なかった。このあたりに「倫理」の存在意義を強く感じた。

◎今後取り組んでみたいテーマ

今回手をつけることができなかったのが「人類の福祉」である。国際協力に関する考察に取り組んでみたい。また、3つの分野とは異なるが、「法と社会のかかわり」についても考えてみたい。現在の日本では、法律への関心が非常に高まっている。人々の権利を守るはずの法がひとり歩きし、とすると人々の生活を縛り、窮屈な社会を作ってしまう。アメリカ合衆国やドイツをの社会を材料に法について倫理面からアプローチしてみたいと考えている。